

### 第3回 高根沢町学校規模適正化検討委員会 議事録

日 時 令和3年12月16日(木) 午後6時30分～午後8時00分

場 所 高根沢町農村環境改善センター 研修室

出席者

- (委員) 佐藤(栄)委員長、小堀副委員長、森委員、佐藤(晴)委員、牧委員、岩崎委員、高久委員、荒関委員、五月女委員、見目委員、高橋委員、保田委員、鈴木委員、榎本委員、小池委員、加倉井委員、郡司委員、飯山委員、石山委員、加藤(正)委員
- (事務局) 坂本美知夫教育長  
福田課長、小林課長補佐、福山管理主事、今平指導主事、山口係長、林主事

欠席者

- (委員) 檜原委員、齋藤委員

#### 1 開会

#### 2 教育長あいさつ

第3回会議にお集まりいただきましてありがとうございます。本日は、前回の会議で委員の皆様から要望がありました、高根沢町の計画や教育ビジョン等に関する資料、小中学校の概要資料、清原北小に関する資料、芳賀町立小学校の統廃合に関する資料について説明いたします。委員の皆様で情報共有をした上で、学校規模の望ましい形を検討していただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

#### 3 議事要約

議長(副委員長)	それでは会議に入ります。最初に、事務局から追加資料の説明をお願いします。また、各小中学校長から学校の特色などについて説明をお願いします。
事務局	(事前送付資料について確認し、芳賀町立小学校の統廃合に関する資料、清原北小に関する資料、アンケート調査票の案について事務局から説明)
各小中学校長	(各小中学校の概要や特色について説明)
議長(副委員長)	今回は「望ましい学級の人数や学級数」にテーマを絞って、各委員から意見をお伺いします。
A委員	小規模校は一人一人に先生が目が届きやすく、きめ細かな指導ができるというメリットがあるが、1学年1クラスでクラス替えができないのは切磋琢磨する機会が少なくなりデメリットになると思います。最低2クラスは欲しいです。
B委員	各小中学校長からの説明を聞いて、どの小中学校も子どもたちに寄り添った学校運営をされているのが理解できました。望ましい教育環境については、今の子どもたちが学校に望んでいることを踏まえて検討する必要があります。现阶段では、「学級数や学級人数の適正な数」の答えにま

C委員	<p>では至っていないため、発言を控えさせていただきます。</p> <p>「望ましい学級の人数や学級数」は学校の先生方が一番よく分かっていると思いますが、私は1学年複数のクラスが望ましいと考えます。クラス替えができないと人間関係が固定化されてしまうので、子どもたちにとっても先生にとってもよくないことだと思います。「1クラスの人数が35名より少なく、1学年3～4クラス」というのが、子どもたちも学校生活を過ごしやすいのではないのでしょうか。</p>
D委員	<p>資料を読めば読むほど、子どもたちにとって何が望ましいのか分からなくなりました。自分の中で答えが出せるように更に考えていきたいと思えます。</p>
E委員	<p>今までは、「与えられた教育環境」という認識であったため、「望ましい学級の人数や学級数」を考えたことはありませんでした。クラス替えについては、クラス替えをした際に新しい人間関係を構築するのが苦手とする子どももいると思います。現段階では何が適正なのか答えを出すのは難しいです。</p>
F委員	<p>望ましい学校規模については、学校の先生が一番よくわかると思います。以前よりも配慮が必要な子どもが増えているなどの変化もよく分かっていると思います。以前と比較して多様性に対応した学校運営が求められていますので、1クラス25名ぐらいがよいのではないかと思います。社会性やコミュニケーション能力を身に付けるためにも最低2クラスが望ましいと思います。</p>
G委員	<p>各小中学校の目標等の説明を聞いていると、やはり「心・技・体」という点を中心であるのかなと感じました。大人たちが学級の人数や学級数を決めることも大切ですが、私は、これぐらいが適正という数の考えは無いので、子どもたちに合わせて教育をしていくことの方が大切だと思います。</p>
H委員	<p>児童数が少なすぎると複式学級になるなど、ネガティブな面があると思います。ほかの保護者からは、小規模校では一人一人に先生が目が届きやすくきめ細かな指導ができるメリットがあるので小規模の学校を残してほしい、などの声を聞いています。また、大きな規模のクラスが合わなかった子が、小規模特認校制度を利用して小規模校に来ることで、生き生きと学校生活を送っている事例もありますので、小規模特認校という制度は残していただければよいのではないかと思います。</p>
J委員	<p>複数クラス以上の規模が前提での話ですが、私の学校ではクラス替えの時期には、「2クラス編成」よりも「3クラス編成」になって「1クラス当たりの人数が減った方が子どもたちを見てもらいやすい」という意見が保護者の中から出ています。子どもたちにとっても、1クラスにある程度的人数がいたほうがよいとは感じていますが、具体的な数字については、まだ計</p>

K委員	<p>りかねています。先生の人数など学校運営側の視点を考慮して、「望ましい学級の人数や学級数」を考えていくべきだと思います。</p> <p>適正な規模についてはまだ分らないです。適正規模校も小規模校も、それぞれによいところがあると思いますので、それを大事にしていけたらと思います。「知・徳・体」の調和のとれた、子どもたちが安心して通える小中学校にしていけたらと思っています。</p>
委員長	<p>様々な意見をありがとうございました。</p> <p>前回の会議では、学区を無くして選択制にする話が出てきました。仮に学区を無くして選択制にした場合には、与えられた環境という前提がなくなり、自分の子どもに合わせた学校を選択していくことの「親の責任」が増してきます。またこの場合、小規模特認校以外の学校をどの程度の規模にするのか、集約するのかという問題は残りますので、そうすると、今思いついただけの話ではありますが、大規模・中規模・小規模の学校を選択制という形も考えられるのかもしれないと個人的には思いました。</p> <p>選択という意味では、社会全体が豊かになり、選択肢が多く多様性に富んだ社会となってきたため、そういった多様性に対応できる子どもたちを育てていかなければならないと思います。</p>
議長（副委員長）	<p>本日、意見を伺った中で重要だと感じた点としては、「各学校の説明を聞いて、本当に望ましいのは何か分からなくなった」という発言がありましたが、これは「本町の学校教育が充実していることの表れである」と感じたところです。</p> <p>今日は「望ましい学校規模」というテーマで協議を行いました。最終的には「適正な学校規模」という結論を出していかなければならない会議ですので、判断を保留にされている方や、まだ分からないという方もいらっしゃいますが、今後は更にこのような協議を進めて、我々に与えられた命題をクリアしていく必要があると思います。</p> <p>そのほか、委員の皆様から意見はございますか。</p>
C委員	<p>様々な障害や発達障害を持った子どもたちが、同じ学校で一緒に生き生きと学んでいけるような環境が整えられた学校規模、という考え方が大切だと思います。</p>
議長（副委員長）	<p>そのほか何かありますでしょうか。</p>
H委員	<p>公聴会に参加した保護者から、1月にアンケート調査が実施される旨の説明があったと聞きましたが、本日配付のアンケート調査票の資料は、1月に実施するアンケートでしょうか。</p>
事務局（課長補佐）	<p>1月に実施するアンケートです。当初のスケジュールでは2月実施と記載していますが、なるべく早く結果を報告するため、少し前倒して1月実施としています。</p>

H委員	議事録だけでは話が見えてこないという意見もあるため、ホームページに資料を載せていただくことはできますか。
事務局（課長補佐）	できる限り検討します。
議長（副委員長）	以上をもちまして、第3回会議を閉会します。